



高野ムツ才選

撃たれたる熊に無言の空の蒼

新座市 田中 美登

【評】昨年来の熊出没のニュースは改めて共生の難しさと自然愛容の深刻を突きつけた。古来の熊狩りの一場面とも鑑賞できるが、熊の死を悼む空の深い色が胸を抉る。

射殺とは言はずに熊を駆除と言ふ

町田市 枝沢 聖文

【評】敗戦と言わず終戦。殺処分ではなく安楽死。言葉の選択によって見えてくるものと隠れるものがある。言葉は便利だが恐ろしい。

落葉踏む音に国の差なかりけり

八王子市 徳永 松雄

【評】体制の差、貧富の差、そして、何より平和と戦争の差。踏む落葉の音に聞き入りながら、世界のさまさまな矛盾に思索を巡らせている。

懐炉貼り颯爽と行く風の道

東京都 山田真理子

そのけと渚の踏跡でこかしこ
楢木足しやつと上巻読了す

対馬市 神宮 斉之

冬さるる公衆電話なきことも

神奈川県 石原美枝子

廃線にレール残れり冬西

北上市 佐々木清志

ボロ市の隅にぎやかに餅を搗く

横浜市 藤井 みき

根木打石ころ一つ蹴飛ばして

大阪市 今井 文雄

正木ゆう子選

頭上飛び越え富士の嶺に初日さす

神奈川県 中島やさか

【評】作者は富士山を東の方から見ているのだろう。そこからはまだ初日が見えないのに、富士山の天辺には日が当たっている。「頭上飛び越え」とは、その通りで、愉快。

雨降りてあの桜坂帰る花

船橋市 中島 紺

【評】アイドルの名、あるいは歌になっている桜坂。盛りの桜でなく帰り花を詠んでいること、晴天でなく雨降りとしたことなど、巧みである。

花の名の貝殻ひとつ冬の風

茅ヶ崎市 原田 博之

【評】一瞬何だろうと思ひ、すぐに桜貝が浮かぶ。花の名前をあえて伏せたことが一句の余白となり、結果的に下五の季語が強調されている。

噴煙の昼月あくる寅彦忌

小田原市 木村のり子

爪立てて黒豆劈くや紅ほのか
小庭得て柚子の日和も吾のもの

千葉県 新島 郁子

荒ぶれる熊をも抱き山眠れ

神栖市 桐本 博昭

帰の花と言ふも何とも賑やかな

行田市 小河原一路

信号の点滅早し十二月

横浜市 延沢 好子

杵姫返し翁で鏡餅

周南市 原田 英夫

小澤 實選

ひゅうと鳴きかたかた笑ひ鍋焼来

大津市 星野 曉

【評】擬人化というレトリックを用いた句はあまりとりたくないのだが、掲出句は鍋焼きうどんのしだいに煮え立つてくる様子がしつかり捉えられていて、惹きつけられた。

力力カンと中華屋の鍋春隣

武蔵野市 西林 哲

【評】中華料理の大きい鍋をおたまで叩いている金属音である。炒め物がそろそろできあがるのだろう。取り合わせ季語の気分もいい。

枯野なる言腸線の無人駅

多摩市 倉林 浩一

【評】盲腸線は鉄道の本線から分かれた、短い路線。この無人駅は終着駅なのかもしれない。無人駅の名前の通りで、人の気配がない。

漱石の通夜の鵬外インバネス

川崎市 野山 道助

アイリッシュコーヒの泡雪しまく
おつかれと言ひ教師が師走なる

千葉市 石野 勤

大雪のらせん階段カツカツと

宇都宮市 津布久 勇

宿題のマフラー母が編みにけり

流山市 高橋 郁代

終戦知らぬ戦死の父や開戦日

東京都 斎木百合子

古伊万里の藍の透けたるてつさかな

宝塚市 大曲富士夫

津川絵理子選

初湯出てしみじみ臍をいぢる嬰

川口市 高橋まお

【評】風呂を出た嬰兒がしきりに臍をいじっている。臍の緒で母と繋がっていたのだ、と原初の記憶を手繰り寄せるような仕草。「しみじみ」に可笑しみがある。

冬至柚子善きことのみを記憶する

村上市 鈴木 正芳

【評】柚子湯に浸かりながら、あれこれ思い出す。嫌なことは忘れて、善いことだけを覚えておこう。柚子の明るさがその感慨に響き合う。すくすくと老いて迎える初日の出

東京都 石井 秀一

【評】大きな病気をすること無く老いた。老いも成長の過程と言える。「すくすく」とがユーモラス。健やかに年をとるためださが伝わる。

古本に葉あたらし紅葉散る

加古市 石村 まい

竹馬や鶴になりたる心地して
再々婚さらりと書かれ年賀状

仙台市 鎌田 魁

響鑼の選者去りたり花終

奈良市 宗平 圭司

口癖がオーケー牧場熊手売

大津市 千川 修一

短編のよつに紅葉の散りにけり

さいたま市 与語幸之助

ちびちびと余生を遣い暮るる年

東京都 関根ともみ

年間賞 短歌 ②

肺がんで死んだ阿呆の墓までを蹴踓の蜜を吸いながらゆく

市原市 十条 坂

【評】今年はこの一首に、深く心を打たれました。へわれと死者との長く、篤い友情を感じられます。一緒にツツジの蜜を吸った幼時からの友情が、癌によるおそろくは若き死によって終わる。その悲痛な思いが「阿呆」の一言に宿る。深い感情を表しうる、言葉の力を感じます。

(黒瀬珂瀾)



題字デザイン・イラスト 福田美蘭